

2008年度受託研究概要報告

播州織
ファッション特区事業

研究メンバー

野口正孝 デザイン学部ファッションデザイン学科教授

川北健雄 デザイン学部環境・建築デザイン学科教授

委託者

西協商工会議所

1 背景と目的

本受託研究は、兵庫県の「先導的活性化事業」のひとつとして平成18年度より三カ年計画で実施された「西協中心市街地播州織ファッション特区事業」で、西協商工会議所、播州織産元協同組合との産官学連携で本学が取り組んだものである。西協市を中心とする地場産業の播州織の長期に渡る低迷と住民の高齢化により、西協市の中心市街地は活気を失っている。本事業は、高齢化の進む西協市の中心市街地を「播州織」をキーワードにして活性化を試みたものである。これまで環境・建築分野においては、中心市街地の観光スポットである国登録有形文化財「旧来住家住宅」を核にして、周辺の空き家や閉鎖された工場を改装して「播州織工房館」と「デザイナーズショップ」を作った。これに引き続き、今年度は「播州織ギャラリー」を作る事業を行った。また、ファッションデザイン分野においては、産学連携ブランドn+ableで、これまでの播州織とは異なる新たな商品開発を行い、話題性を作るとともに、播州織を活性化させる活動を行った。

2 播州織を用いた製品の企画開発

平成20年4月27日、播州織工房館のリニューアルオープンに合わせて、播州織を用いたシャツ以外の新たな製品である「播州トートバッグ」、「播州ジーンズ」、「播州作務衣」、「播州やたらのエコバック」などの製品を企画・開発した。これらの商品には播州織ならではの「ストーリー」や企画開発した「メッセージ」があるところから、商品名の頭に「播州」を付け、播州織の独自の商品であることを印象づけた。「播州トートバッグ」は工房館の定番商品になり、兵庫県民局や兵庫県市長会、近畿市長会などから特

別注文を受け、累計で500個を超えるヒット商品となった。また、「播州ジーンズ」は、秋冬企画として、経糸に綿糸、緯糸に絹、毛、麻の三素材を織り込んだものを企画した。「播州ジーンズ」は、これまでのシャツ地中心の播州織とは全く異なる商品であったため、注目を浴び、各種メディアで取り上げられ、播州織と工房館の話題性を高め、年間を通して70着を売り上げた。

また、空いているブースを使い工房館内にコーヒーなどが飲めるプチカフェを作った。毎日コーヒーを飲みに来る近隣の播州織の関連業者の方や観光で来られた方が、休憩する場所として使うなど、来館者の滞留時間も増え、ショップの販売担当者との交流が生まれた。

3 播州織ギャラリーの開設

播州織工房館は、地区の東寄りに位置する旧織物工場を改修したものである。今年度は、この中にギャラリースペースを併設した。工房館の一部を再度改修して、主スペースの南側正面に実演可能な実物の織機を設置すると共に、物置に使用していた部分の壁と床をきれいにして、手織り織機やパネル展示を行なうことができるスペースを設けた。ギャラリースペースオープン時の展示物としては、西協市郷土資料館の協力を得て播州織の制作工程や歴史資料をモチーフとした写真パネルを制作した。

また、工房館の主スペースは、催しの無い時にはやや茫漠とした印象を与えがちであったため、その中央に展示機能を備えた大テーブルと椅子を設置することとした。テーブルは約1.8m×7.2mの大きなもので、不定形な穴を所々に設けたアクリル板の下に、生地見本としての播州織を敷き詰めた。様々な小物の展示台として機能するだけでなく、半透明の板を通して播州織の多様な色柄を眺めながら、その上でお茶を楽しんだり、穴の部分では生地感触を確かめることもできるようにした。椅子の方は、半端な布や古い布を利用した「裂き布」や織物工場で捨てられている耳糸を再生利用した「カタピラ糸」を素材として、手織り机上織機で制作された布を背

面に用い、季節やイベントに応じて色柄を取り替えられるようにした。

4 まとめ

播州織工房館とデザイナーズショップの二つの施設の開設や播州織のこれまでにない商品の開発など、大学と産地との新しい試みは、NHKテレビ、朝日新聞、日経新聞、神戸新聞などのマスコミの他、地域の情報誌にも取り上げられ、新たな商品の知名度を上げた。

施設の改修時には、地元の工務店や各種の職人の方々が建築工事や家具の制作に協力してくださり、また、播州織を用いたオリジナル商品の開発を通して、建築とファッションの両方の領域において、大学と地域との新たな交流が生まれた。「播州織工房館」の開館前には地域づくりに関心がなく、むしろ騒音の発生等を心配していた近隣の人々も、工房館のスタッフとの日常的なふれあいを通して、徐々に協力的な姿勢を示しはじめてきている。

なお、播州織工房館の椅子のデザインと制作には、神戸芸術工科大学プロダクトデザイン学科助手で家具工房「wood+iron works 2 ほんの木」の泊里涼子氏、西協在住の織物コンサルタント竹内茂樹氏の協力をいただいた。ここに記して謝意を示す。



写真1 「播州トートバッグ」



写真2 「播州ジーンズ」



写真3 大テーブルと椅子



写真4 ギャラリースペース